

# アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

## 明けましておめでとうございます。

2022年、令和4年となりました。コロナ感染症が心配される中、また生憎の降雪に影響を受ける中、皆様のご協力により、なんとか「シャポーカップ2021 第52回市川市少年サッカー親善大会6年生の部」を開催することができました。激戦を制して決勝に進まれる、フォルマーレ、行徳SCの2チームは、フクダ電子アリーナのフルピッチで予定されている決勝戦を目指して準備をすすめて頂きたいと思います。

さて、今年度本大会を開催するにあたっては、何といたっても雪に悩まされました。

大会2日前の1月6日正午過ぎに降り始めた雪は思いのほか積もってしまいました。幸い午後9時頃には降りやみ、その後天気は回復しましたので、翌日中に何とか雪が解けてくれることを期待しました。

ところが、翌1月7日昼過ぎになっても一部の会場では雪解けが進みません。グラウンド状態が回復した会場だけで開催する訳にもいかず、全体として一日延期の判断をし、連絡をさせていただいた次第です。

しかし、延期した一日で雪が解けてくれる保証はありません。

各会場に、「9日の開催に向けて特段のご配慮をお願いします。」と連絡したものの、心配でなりません。翌1月8日は、早朝から雪解けの様子を確認するため、すべての会場を回りました。

南から回ったのですが、北に行くほど雪解けが進んでいません。特に北部支部、中央支部の、校舎が南側にある会場は、校庭が日陰となってしまうためか、どこの校庭も1/3ほどが、雪が積もったままだったり、中には凍ってしまっていたりと、開催できるか心配な状況でした。

2日続けての延期は想定外ですので、もしそうになったら会場の確保を一からやり直さなくてはなりません。

雪解けが進んでいない会場には、何とか今日中に校庭の整備をしていただき、1月9日開催の目途を立てなければなりません。会場担当クラブの代表者に連絡をとり、厚かましくも、何とか今日中に会場を整備し明日開催できるようにして欲しいとお願いしました。

各会場とも、何とかしますと答えて下さり、ほっと胸をなでおろしました。

後で聞いたところによると、ある会場では「スタッフやコーチ総出で3時間かかりました。」、またある会場では「保護者約50人が雪かき道具を持参して1時間ですみました。」、さらにある会場では、「凍っていると割って地面が見えるようにしたので2時間ぐらいかかりました。」とのこと。

雪には悩まされましたが、市川市全体として、6年生に、小学校生活最後の市内大会を開催させてあげたいという思いが一つになり、1月9日に、第1日目を開催することができ、大変嬉しく思います。

実は1月8日の早朝、翌日の開催が不安な気持ちで各会場を回っている時のこと。ある学校の校庭に近づくと、校舎の日陰となっているところに、白い雪の部分がかなり残っているのが見えました。これは大変だ！と車を降りて近づいて行くと、たった一人で雪かきをしている人がいます。私は思わず駆け寄り、ありがとうございますと頭を下げました。雪かきをしていたのは、会場担当クラブの代表の方でした。これから保護者も動員して整備するのだが、少し早く来て少しでもやっておこうと思って、とおっしゃっていました。

たぶんこの方を筆頭に、同じような心持ちでご協力いただいた方が市川市内には多数お出でなのだと思います。そうでなければ、あれだけの雪を一日で片付けられる訳がありません。

雪には悩まされましたが、私は、6年生の子ども達に、何とかサッカーをさせてあげたいという、4種委員会に関わる大人たちの心意気に強く感動しました。ご協力いただいたすべての皆様一人一人に感謝申し上げますとともに、これからも今まで同様、子ども達を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。